



絵画と企業のスリーパーを探して

「スリーパー」という言葉をご存知だろうか。美術の世界では、本当は価値が高い絵画にもかかわらず、正しくその価値が評価されず、安い値段で売買されるものを指す。美術界のシャーロック・ホームズと言われるフィリップ・モールドはこれまで様々な分析手法を使って、そのようなスリーパーに正しい価値を見出した名人の一人である。彼が見出したスリーパーは数多いが、イギリスのエリザベス1世の父であるヘンリー8世の兄、アーサー王子の肖像画を巡る物語はTVでも紹介され有名である。

アーサー王子についてはそれまで肖像画が一枚もないと言われていた。しかし当時の古文書の解析と絵の詳細な分析から、誰の肖像画であるか分からなかった絵を行方不明であったアーサー王子の肖像画であると見抜き、その来歴を詳らかにする

プロセスは、まさに一級の推理小説を思わせる。

スリーパーを見抜く手法も変遷を遂げているようだ。レオナルド・ダ・ヴィンチの真筆である可能性が極めて高い、「美しき姫君」と呼ばれる絵画の分析はハイテクノロジー時代の現代手法を駆使したものとなっている。1998年にNYのクリスティーズでわずか19,000ドルで落札されたこの絵画は、子牛皮紙という特殊な紙に描かれていること、紙にナイフの跡があること、油絵の具ではなく大部分が

チョークで描かれていること、左手の画家と思われる描き方であることなど、際だった特徴を持っている。これらの一つ一つを、放射性炭素年代測定、マルチスペクトル撮影などの最新技術を使い、ルネッサンス時代の紙と顔料が使われていたこと、筆跡及び絵画の上の指紋が他のレオナルド絵画と極めて似ていること、ミラノ時代にレオナルドが仕えていたスフォルツァ家の本の挿絵から切り取られたものであることなどが分かり、ほぼレオナルドの真筆であると信じられている。

価値が高いにもかかわらず評価の低い企業を見出し、その企業の株式を保有する、という行為も絵画のスリーパー発見と似ているように思われる。企業そのものをつぶさに分析し、本当の企業価値を測定、株価と大きく乖離していれば、その株式を購入し、長期間ずっと持ち続ける。

その企業が予想通り実際に高い利益を上げ、結果的に株価が上昇することで高いリターンを獲得するのである。株価はいわば真の価値を知らない一般人の評価であり、真の価値を知るものだけが高いリターンを得る、という手法と言えよう。いつの時代も真の「価値」を評価するプロセスは困難だが、極めてエキサイティングな仕事なのである。

(堀江 貞之)

